

# 調査研究彙報

## 建物物研究室

**法隆寺建造物調査** 昭和資財帳調査の一環として西院に所在するすべての建造物について調査を行った。今回は特に未指定のものに重点をおきこれらの実測をするとともに写真撮影をも併行した。なかには西大門（元禄10年）・聖天堂護摩堂（安永4年）など近世建築としての優品も多い。87年8月・88年2月（細見・宮本・清水・八幡）

## 歴史研究室

**興福寺典籍古文書の調査** 昨年度に引き続いて、同寺所蔵の古文書聖教函のうち、第41箱以下、『興福寺典籍文書目録』第2巻に収載する分と、それ以降の分について調査と写真撮影を行った。1987年6月、10月。（鬼頭・綾村・館野・八幡）

**法隆寺古文書の調査** 昭和資財帳調査の一環として、記録・古文書の調査を行った。阿7箱から口1箱までの調書の作成と写真撮影を行った。（鬼頭・八幡）

**薬師寺典籍古文書の調査** 東京大学史料編纂所との共同調査で、第8回目にあたる。前回に引き続いて、12～22箱の調書の作成、23・24箱の整理を行い、あわせて10・11箱の写真撮影を行った。1987年7月（鬼頭・加藤・橋本・寺崎・館野・八幡）

**醍醐寺古文書の調査** 前回に引き続き、同寺所蔵の古文書のうち第12・13箱の調査、写真撮影を行った。また前年に引き続き文化庁美術工芸課の依頼によって、同寺所蔵の古文書100箱分の指定調査に参加、協力した。1987年8月、11月、1988年3月。（鬼頭・加藤・綾村・橋本・寺崎・館野・八幡）

**島津家文書の調査** 東京大学史料編纂所所蔵の同文書のうち、第11・14～15番箱の調査、写真撮影を行った。1988年2月（鬼頭・綾村・橋本・八幡）

**仁和寺古文書の調査** 前回に引き続いて、150、151箱の調書を作成した。1988年3月。（鬼頭・加藤・綾村・橋本）

**その他の調査** 石山寺、1987年7月、12月。（加藤・綾村・橋本）高山寺、1987年9月、1988年1月。（加藤・綾村・寺崎・八幡）

## 平城宮跡発掘調査部

**特別研究平城宮跡朱雀門の意匠と構造に関する研究** 昨年度に続くもので意匠・構造ともさらに検討を加え、より具体性のある案を作製するとともに、それを研究会に提示した。（87年5月）遺構との関係で問題となる基礎部については、遺構保護上底面積を基壇全面にとり、荷重の分散をはかるいわゆるベタ基礎案が適当であろうとの結論を得た。（細見・内田）

**神野向遺跡の発掘調査** 常陸国鹿島郡衙推定地の第7次調査。本年度は昨年にひきつづき、郡庁の外郭施設を確認するために、北に2条、東と南に各1条のトレンチを設定した。調査の結

果、郡庁外郭の南限は築地であり、内郭から約50mの位置にあることが判明した。北・東限は前年度の成果をうけて、内郭から約100mの位置を精査したが、確実な区画施設を検出することができなかった。（毛利光、巽、井上、花谷）。

**第12回 遺跡環境整備担当者会議** 1988年12月、同会議を当研究所が担当し開催した。大規模な整備対象遺跡をかかえる全国の担当者が25名集まつた。本年度は『遺跡における行事・イベント利用の実態とその在り方』というテーマにより、各遺跡における事例報告と討議を行なつた。（田中・高瀬）

**滋賀県下庭園の実測調査** 今津町の極楽寺庭園（350m<sup>2</sup>）、および大津市の聖衆来迎寺庭園（220m<sup>2</sup>）の実測調査を行つた。前者は江戸後期、後者は江戸初期の作庭であり、いずれも枯山水。縮尺50分の1で周囲の建物も含めて実測した。1987年12月。（田中・高瀬・本中・五島）

**対龍山荘庭園の実測調査** 京都市文化観光局の依頼を受けて、京都市左京区に所在する明治期の別荘・対龍山荘の庭園（面積約5,200m<sup>2</sup>）の実測を行い、100分の1の平面図を作成した。なお、対龍山荘庭園は、その後文部省から名勝に指定された。（田中・本中・小野）

#### 埋蔵文化財センター

**今帰仁城の写真測量** 沖縄県国頭郡今帰仁城の石垣の写真測量（第8次）を今帰仁村が実施、これを指導した。前年度までで、SMK120、SMK40を使用できる場所は終了したので、今年から、はねつるべ式撮影システムを採用した。1988年3月2日～13日（木全・伊東・西村・松本）

**蓮ヶ池横穴群の保存工事** 宮崎市。史跡整備に伴う横穴（凝灰質砂岩をほりこんだもの）の保存修復修理。温湿度を測定した結果、常に高湿度状態を維持しているものと比較的乾燥状態にあるものと2種類あることがわかった。横穴内部の保存状態は良好であるが、外気に接する羨道部は風化のため欠損しているものが多い。昨年度に続き、合成樹脂含浸により強化したのち、外気に接する欠損部分は、吸脱湿性のあるエポキシ樹脂で擬土をつくり復元した。（田中・沢田・肥塚・村上）

**高木遺跡・四十九院遺跡の探査** 滋賀県教育委員会が計画している「探査法開発事業」の一環として実施したもの。水田における電気探査2極法による測定が、住居跡など低比抵抗の対象に有効かどうかを実験、現地にてこれを指導。1987.9.7～9.12（西村）